

令和6年度第2回前橋市総合教育会議 会議録

日 時 令和6年12月10日（火） 午後3時00分から午後4時00分まで

場 所 議会庁舎6階 第2委員会室

(市長)

小 川 晶

(副市長)

細 谷 精 一

(教育委員会)

教育長	吉 川 真由美	教育長職務代理者	奈 良 知 彦
委員	畠 山 正 文	委員	渡 辺 照 子
委員	北 爪 麻衣子		

(事務局)

教育次長	片 貝 伸 生	指導担当次長	金 井 幸 光
総務課長	高 橋 雅 人	教育施設課長	木 村 一 弥
文化財保護課長	神 宮 聡	学務管理課長	後 藤 弘 史
学校教育課長	田 村 裕 之	生涯学習課長	佐 藤 由美子
教育支援課長	安 藤 尚	図書館長	齋 藤 明 子
未来創造部長	阿佐美 忍	福祉部長	福 島 健 一
こども未来部長	猪 俣 理 恵	健康部長	宮 坂 恵理子
政策推進課課長補佐	川 崎 訓	こども支援課副参事	佐 藤 裕 之

教育次長 皆さん、こんにちは。師走のお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございました。
ただいまから令和6年度第2回前橋市総合教育会議を開会いたします。
本日、進行を務めます教育委員会事務局教育次長の片貝でございます。どうぞよろしくお願ひ致します。
この総合教育会議は、市長と教育委員会との協議・調整の場として、開催させていただくものです。今回の総合教育会議も前回に引き続きまして、「こどもの「生きる力」を育むために」をテーマとさせていただきます。なお、出席につきましては市長、教育長、教育委員、関係部長に参加いただいております。会議は約1時間程度を予定しておりますので、どうぞよろしくお願ひします。
それでは開会にあたり小川市長にご挨拶をお願ひ致します。

市長 本日はお忙しい中、第2回前橋市総合教育会議にお集まりいただきましてありがとうございます。先ほど片貝教育次長からお話がありましたように市長と教育委員会の皆さんとで前橋の教育について考えるという貴重な機会になっておりますけれども、年に2回開催していて、1回目は7月に開催しました。今回2回目ということで教育委員は奈良委員、畠山委員、そして渡辺委員と新しく加わっていただいた北爪委員と4人全員参加をしていただけるということで大変嬉しく思っております。
子ども達を取り巻く環境というのは、本当に複雑化・多様化していると思ひまして、そういった意味では市役所の中も子ども施策で、今まで部署ごとに分かれていた所を全部横串を刺して全庁的に組織を繋げて、子ども達のことをやっぺいこうということで進みだしたところですが、是非、今日もそういった取組を報告させていただきながら、また皆さんの視点で、活発な意見をいただけたらと思ひしております。楽しい1時間にしていきたいと思ひますので、たくさん発言していただければと思ひます。どうぞよろしくお願ひ致します。

教育次長 ありがとうございました。
続きまして。吉川教育長からご挨拶をお願ひ致します。

教育長 本日は令和6年度の第2回目の総合教育会議で大変お世話になります。先ほどお話がありましたけれども、北爪委員にとっては今回が初参加ということですので。

総合教育会議というのは、市長さんをはじめとする市長部局、そして教育委員会が円滑に意思疎通を図って、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して教育行政を推進していくための私達にとって非常に大事な会議です。必ずしもこの場で意思決定をするということではなくても、方向性を共有したり、また一致して執行にあたるために非常に大事な会議となっております。「こどもの「生きる力」を育むために」。非常に大きなテーマですけれども、市長さんと一緒に委員の皆様と活発な意見交換ができたと思います。どうぞよろしくお願い致します。

教育次長

ありがとうございました。

では、さっそく議題に入らせていただきます。これ以降の進行につきましては、教育長にお願い致します。

教育長

それでは次第の4にあります「こどもの「生きる力」を育むために～教育・福祉・医療との協働」を前回に引き続き議題とさせていただきます。

前回の総合教育会議では、小川市長からこどものまち前橋を推進するためのお考えをお示しいただきました。そして会議では、こどもを取り巻く環境は非常に早いスピードで変化をしていますが、まずは私達が連携をすることが重要であり、教育委員会だけでは解決できない課題についても市長部局と連携を図れば、課題解決の次のステップにつながると感じることができた会議でした。

今回は、まず初めに前回の会議以降、庁内で連携が始まった、あるいは既に連携していた事業の紹介をさせていただきます。その後小川市長と教育委員の皆様で意見交換ができればと思っております。本日私が司会進行をさせていただきますけれども、小川市長、教育委員の皆様、折角の機会ですのでお互いに質問、意見交換など忌憚なく発信をしていただければと思います。

では早速ですけれども、連携の取組や実績など教育次長から説明をお願いできますか。

教育次長

本日は市長部局の関係部長も出席しておりますけれども、ここでは私の方から現在、庁内で取組んでおります連携事業について説明をさせていただきます。お手元の資料、紙ベースの2ページをご覧ください。

まず初めに1の連携の取組ですが、市役所庁内にこども施策連携チームズを設置致しました。資料にありますように、多岐にわたる

こども関連の施策を組織横断的な連携によって強力に推進するものです。これまで関係各課の連携状況が内や外から見えにくいといったご指摘や、形のない連携は、特定の職員の経験や資質に頼ることが多く、人事異動などがございまして、その連携力が弱まるという可能性がありましたことから、既存の連携体制を活かしながら、取組を可視化するものでございます。現在庁内において12のチームが活動を始めております。

次に3ページになりますが、ここからは連携チームズなど様々な連携の中で実施している主な6つの取組の実績を報告させていただきます。

次のページをご覧ください。4ページになります。1つ目は、オンライン支援「まえばしコネクト」です。「まえばしコネクト」は不登校児童生徒にオンラインで学習や交流活動の支援を行うものです。資料にありますように配信する曜日や時間を決め、市教委からだけでなく、県教委が実施する「つなサポ」とも連携を図りながら事業を進めているところでございます。9月から事業を開始いたしまして、11月末現在で7人が登録しており、人との繋がりを持つ喜びを実感できる取組になっています。

次のページをご覧ください。2つ目は「日本語指導スタートアッププログラム」です。外国にルーツを持つこどもが本市の小中学校に入学する際に、日本の文化風習や学校生活を知り、馴染んでもらうためのプログラムです。現在総合教育プラザの会場を中心に、3人の児童生徒が週に3日から4日プログラムに通っておりまして、こどもだけでなく、保護者の不安感を取り除くための相談や支援も行っております。この事業は文化国際課を始め、群馬県とも連携をとりながら進めています。

次の6ページをご覧ください。ヤングケアラー支援事業です。これは教育委員会とこども未来部との両方に、ヤングケアラーの担当職員を配置し、お互いが連携をとりながら相談者の支援を行っているものです。昨年度学校におきまして、タブレット端末を用いたヤングケアラーの実態調査を行いましたけれども、そこでの実態把握をもとに今年度から支援の必要な家庭に支援員の派遣を行っております。引き続き学校と教育委員会とこども未来部の連携により、支援をしていきたいと思っております。

続きまして7ページをご覧ください。「公民館 こころの教室」です。これはこども達のメンタルヘルスの課題解決を図るため、医療との連携による人権ミニ教室「こころの教室」を夏休みに公民館で開催するものです。公民館と保健予防課が連携することにより、具

体的な課題が発見された場合には、直接子ども達に支援を行うことができ、今後さらに他の公民館でも展開をして行きたいと考えています。

続きまして8ページになります。「生徒指導主任への自傷・自殺の対応講座」です。これは学校の生徒指導主任の先生を対象に、精神保健福祉士による生徒の自傷・自殺防止の観点からの講義を行うものです。11月に実施しました講義では、専門家からの説明で日頃からの生活観察の重要性を認識する声が多くございました。

最後に9ページをご覧ください。「前橋学習支援事業 M-Change」です。これは以前から実施されていた事業ですが、養育環境に課題があり、支援を必要とする家庭の中学生に対する学習支援事業です。今回のこども施策連携チームズにより、連携の可視化と課題の共有が図られ、社会福祉課と教育委員会と学校との連携がより深くなったと感じております。

以上、誠に簡単ではありますが、こどものまち前橋に向けた組織横断的な連携による主な取組を報告させていただきました。

教 育 長

ありがとうございました。

今、6つの主な取組についてご紹介をさせていただきましたけれども、この6つについてここが知りたいというようなことやご質問はございますか。

奈 良 委 員

ヤングケアラーの支援事業で学校に送るアンケートがありますが、取ったアンケートの内容が載っている資料があれば一番良かったと思います。どのような内容だったかを少し知りたいです。答えられればお願いします。

教 育 支 援
課 長

昨年度、ヤングケアラーが市内にどのくらいいるのか、3回に分けて実施しました。1回目と3回目が小学校5、6年生と中学校1、2、3年生、2回目は先生向けということでアンケートの方を取らせていただきました。

内容といたしましては、家庭環境や日常における家庭での支援をしている子の状況、他にはヤングケアラーという概念をどのくらい知っているのかという調査や、お世話をどのくらいの時間行っているのか、自分はそれによってやりたいことができているのか、そういったところを1回目に調査をいたしました。ほぼ全国のヤングケアラー調査と同様の内容ということになっております。2回目につきましては、先生方を対象に、そういった児童生徒を今までに対

応じた事があるか、そしてその時の課題は何か、といったことをお聞き致しました。3回目につきましては、こども達にどういう相談窓口があったら良いのか、ということをお聞きして、人目に触れない相談窓口があると良い、というような回答をいただいているところです。

以上が説明となります。

奈良委員

ありがとうございました。

こういったアンケートは、どのような書き方をして、どのような回答があるのかという具体的な内容や、解決に向けて皆で考えていくことが大切だと思うのですが、中でもアンケートそのものにも答えづらいと言う児童生徒もいるかもしれないということです。やはり、教室にいる先生との信頼関係、この辺も見ながら、もしかしたら「先生の勘違いかもしれませんが、このような児童生徒がいます」という報告があるのかと思います。全部を吸い上げるのはかなり難しいことですが、取り残したくないです。その辺をこのようなアンケートなどで色々な意見を聞きながら、是非、現状で満足するのではなく、改善していただけるとありがたいと思います。

市長

どういう取り方をするかによって答えやすさが変わってくると思うので、貴重な意見だと思います。ちなみに去年取ってもらったアンケートでヤングケアラーとして、前橋で把握している人数は何人でしたか。

教育支援課長

ヤングケアラーに当てはまるというふうに回答したお子さんは全体の1.4%ぐらいで103名程度と言うことで、認識をしております。

市長

ありがとうございます。

教育長

これまで数回、アンケート取っていますけれども、特に答えたくないというふうに回答することでも確かにいて、日頃からの先生方の見守りや、例えば朝どうしても出てくるのが遅い、しっかりとした服装ではないなど、そのようなことはアンケートには滲み出てこないことですので、学校でしっかりと認めながらアンケートと照らし合わせて、サポートしていくというのが大事であると思います。それと学校の先生がこの子はヤングケアラーではないかと感じた時に学校の先生は、まずどこにこれまで相談や繋いで来られたのでしょ

うか。

奈良委員　私が教員をやっている、現役の頃はまだヤングケアラーという言葉がなかったように思います。こどものことの色々な悩みや、少し様子がおかしいという時は、まず担任の先生が学年主任に報告・相談し、そして教育相談がありまして、教育相談の先生や保健室が児童生徒のよりどころになっているようなところがあります。そういった先生との共有をしながら担任の先生、そして教頭先生、校長先生という手順で繋いでいた感じです。

教育長　ありがとうございました。
　　畠山委員のクリニックには、色々なこども、またその保護者の方がいらっしゃると思うのですが、今、奈良委員がおっしゃったような養護教諭の先生方から何かご相談というようなことはありますか。

畠山委員　養護教諭の先生から勧められて来るというケースがスクールカウンセラーの中ではかなり多くあります。各学校に配置されている、スクールカウンセラーは養護教諭と繋がって養護教諭から、「少し心配なので話をして下さい」と言われることは結構多いと思います。個人でやっているオフィスの方に来るかといいますと、そこまで多くはないですが、養護教諭が関わっていて、来られるという方もいらっしゃいます。

　　ヤングケアラーについて色々な立場で関わっていくことは結構重要なことなのです。家庭訪問をして、家事などを支援する物理的な環境調整や環境を整えてあげるといような支援は、非常に重要だし、そのことによって保護者が本当にストレスでいっぱいだったところが和らいでいくということがあります。

　　一方で我々カウンセラーや心理の立場からすると、なかなかヤングケアラーと心理は関わらないことが多いのですが、心理はヤングケアラーのこどもというのは割とある種家庭の中で役割を与えられていることによって、自己肯定感がギリギリ保たれているという場合があります。それさえ失われてしまうと「もう全て自分はダメだ」という方向に行ってしまう子が、結構たくさんいます。その辺はなかなか社会福祉士、精神保健福祉士の立場からは見えてこないと思いますか、すごく鋭く見られる方もいらっしゃいますけど、とにかく状況を整えてあげれば、この子のサポートになるだろうと思ってやったけど、実は本人がもっと辛くなっていくというケースもあ

りますので、ぜひそういう多面的な職種連携というのを意識してヤングケアラーは支援していただけると大変嬉しいと思ったりするところではあります。

教 育 長 難しいと言いますか、ただ家事のサポートをすれば良いというのではなく、深い知識と経験を持った人がしっかりと多面的にサポートしていくということが、ヤングケアラーにとっては大事であると思います。

今、環境調整という言葉がありましたけれども、渡辺委員は大人のこころとも関わるようなコーチングをされていますけれども、チームで1人の人を見ていくことや、環境を整えていくことにどのように関わっていらっしゃいますか。

渡 辺 委 員 例えば、今回このチームズというのが設置されたというのがあります。このようなチームで展開するというのはとても大切だと思いますが、それぞれのチームが自分のやることだけをやっていただけではチームにはならないと思います。個々が交わる部分が必要だと思うので、例えばこういう形が進んだら報告をし合う、また大変さや上手くいったことをチームで交換し合うということが起こらないと、チームにはなっていないと思います。そういう意味では、1人が複数をとという時にキャッチボールになる機会を多く作ることがとても大事なのではないかと考えます。

教 育 長 ありがとうございます。

今、渡辺委員から報告をし合うこと、単にその専門性を生かしてサポートするだけではなくて、サポートする人がお互い報告し合っていくことも大事ではないかというお話がありました。このチームズについて現在各チーム内で報告はどのようにしているのかお話しただけですでしょうか。

こども未来部長、お願いできますか。

こども未来部長 チームズにつきましては、現在12のチームということで立ち上げまして、チームが複数あるので、チームズと命名させていただいています。こちらの方で連携推進チームというのを真ん中の核になるところに置きまして、そこに教育委員会総務課の方、こども未来部のこども支援課こども政策係長を置きまして、そこがしっかりと11のチームを回しながら、意見交換も勿論行ったり、報告もし合うような形で活動しています。

毎回の報告というのは全庁的な掲示板のところで共有ができるシステムを作っておりますので、全庁のどの職員もこのチームズがどういう状況で何を検討しているかというのが見られる状況を今作っています。それをさらに市長を本部長としたこどものまち前橋推進本部という組織に報告をして、最終的にこども政策をこういうふうにやっていこうという形での検討をしっかりと共有する仕組みを作っております。まだキックオフしたところもあるものですから、具体的な報告については、こちらの方では差し上げられないのですが、そういった形で進めております。

渡辺委員

ありがとうございます。

報告が行える仕組みがあることが分かりましたので、報告したらその相手のやっていることを認めるというフェイズも入れていただくことが大事かと思っておりますので、是非そういう状況を組込んでいただけるとより強いチームに繋がっていくと思っております。

市長

私も連携チームズのそれぞれのチームのフォルダーをたまに覗いています。まだ始まったばかりで選ばれたメンバーの皆さんの、例えば所属や名前、業務内容のような紹介が入っているものが多いのですが、改めて各所属の人の仕事内容など、色々な情報が整理でき、これから連携していく上でも、大事だと思ったので、さらに活動があったら報告を共有して、お互い評価をしていくのも良いことだと思えました。

教育長

このチームで動いているのですが北爪委員、何か感想はありますか。

北爪委員

普通の一般市民として市役所そのものが、それぞれの階、それぞれの部署が別物みたいな見え方をしていました。私は農業をしているので、7階の農業の担当課によく行くのですが、「農業はこちらの課。違うことがあれば、他の階に行ってください」と言われます。本当にそれぞれの課が離れているという印象がすごく一般市民としてありましたが、今回このような機会をいただいて、見させてもらった時に、こういったこどもを中心としてチームになっていることが市民としてすごくありがたくて、繋がろうとしているところが大人の人達にもあるのではないかとすごく感じたので嬉しく思います。

市長

報告がありました公民館でやっている「こころの教室」がたまたま

今年には宮城公民館と桂萱公民館での開催ということだったのですが、こども達や保護者の立場で、地域の公民館で開催されているこどもに関する講座やチャレンジ教室などは、結構皆さん関心を持って情報を集めていたり、実際に参加したりしているのですか。

北爪委員 その家庭によりすごく差があって、熱心に参加する人は休みになれば、公民館に行って活動に参加し、いろんな地域の方と接するのが本当に好きという方もいらっしゃるけれど、やはり忙しくて中々そこまで行けないという方もいます。他には「すぐーる」などでお知らせがたくさん来るのですが、多過ぎて見落とししてしまったり、「来年これ行きたかったけれども、もう募集が終わっていた」というのも耳にするので、そのような所がうまく整理できたりしていれば良いのかというふうには思いました。

市長 タイトルや名前の付け方によってこれは参加したいと思ったりすることもあります。

北爪委員 他には少し見て、フォルダーを開かないとその情報までたどり着かないということもあるので、どのようにしたら開いてもらえるかを考えることが、今大事なのかというふうには少し感じています。

市長 また、後で個別の案内についても、このような名前であったら少し興味がわくだろう等、いろいろアドバイスいただければありがたいと思います。

教育長 今、北爪委員からお話のあった保護者連絡システム「すぐーる」で前橋市内の学校や保護者が皆スマホなどで様々な情報を見られるようになってはいるのですが、その「すぐーる」には、この4月以降、私達が他部署との連携を強化したことによって、色々な情報が集まってきた、量だけはかなりいくという状況ですが、そこがまだ十分に整理がされていないので、これ行きたかったという情報にたどり着けなかったりしているところもあるので、この辺は改善が私達も必要かというふうに思っております。良い情報をしっかりと市民の方に結びつけるということに気を配っていかねばいけないと思いました。

ありがとうございます。

市長部局の方にお伺いしたいのですが、連携が始まって半年以上が経ちますが、市長部局の方から見て、教育委員会との連携に意識

的な変化、あるいは取組方の変化というものは何か生まれましたでしょうか。もしあれば伺えればと思います。

福祉部長、いかがですか。

福祉部長

今回提出していただいた資料の中の実績で言えば、「前橋学習支援事業 M-Change」という事業で生活困窮世帯の方の連鎖を断ち切るために子どもに対して学習支援をするというものなのですが、説明の中にもあったように、数年前からやっていました。

しかし中身としては、やはり福祉部の中だけで取組んでいるという意識が強かったのが、昨年度、今年度、色々と教育委員会と連携することで周知をしていただいて、皆さんに知っていただくという中で、現場の方の見学に行っていたり、もし何かがあった場合には、こちらからも相談しやすい体制が整ったりと、より今後の事業の発展が見込めるかと思っております。

まだまだ具体的に変わったわけではないのですが、やはり常日頃からこのように連携していることで、何かあった時の体制が整ってきているのではないかと感じております。

教育長

ありがとうございました。

金井指導担当次長に伺いたいのですが、一緒にこの「M-Change」の様子を見せていただきました。そこでの子ども達の様子や、またサポートしている方々の様子などについてお話しいただけますでしょうか。

指導担当次長

先日、「M-チェンジ」の夜の実際の活動を見学させていただきました。子ども達が、本当に様々な方々から支えられていて、その中で生き生きと勉強している姿を生で見させていただくことができ、我々が想像する以上に、社会の中で子ども達が様々な方々に支えられているのだということを強く実感しました。

そのことと関連して、今年度、教育長の助言もあり、子ども関連の様々な部署を見せていただく機会をかなり増やし、実践しています。やはり「百聞は一見に如かず」という言葉通りで、頭ではわかっていたのですが、例えば「子ども発達支援センター」などを実際に訪問させていただいて、色々なサポートしている方々から生の声を聞いた時に、このような形でも、子ども達を支えていただいているのだということが頭の中に実感として入ったので、単純なことかもしれませんが、やはり互いに実際に見合うこと、「百聞は一見に如かず」の重要性を、今、非常に実感として持っています。

学校現場についても、今まではなかった広範囲の関係部局の方々
に実際に現場を見ていただいております。実際に見ていただいた多
くの部局の方々から、「非常に大きな発見があった」ということを伺
っており、やはり「お互いに見合う」ということも、単純ですが効果
の高い「連携」に繋がっていくのだろうということが、実感としてあ
ります。

教 育 長

金井指導担当次長からお話がありましたけれども、会議の時に状
況を共有するだけではなくて、やはり現場を見るということはとて
も大事だと感じたこの数ヶ月でした。

今までなかったかと思いますが、学校現場を財務部の方、総務部
の方に見ていただいて、ここであれば予算はこうなるべきだとい
うようなことも確信をもって私達もお伝えをすることができますし、
こども未来部、健康部、福祉部はより詳細な支援の方向性というの
がご覧いただけたのではないかと思います。

健康部長にお伺いをしたいのですが、公民館の「こころの教室」、
また、「生徒指導主任への自傷・自殺への対応講義」などもしてい
ただいておりますが、学校現場等も見いただいております。これま
での数ヶ月を振り返って、この連携についてお考えはいかがでし
ょうか。

健 康 部 長

まず「こころの教室」ですが、例えば実績で言うと、まず宮城公民
館の方が26人の方に参加していただいております。小学生も各学
年から何人かずつというくらいで宮城の方は小学生が20人、保護
者の方が6人です。桂萱公民館の方は33人の方が出席をしてい
ただいて、そのうち小学生が22人、ボランティアの方が6人、大人
5人というような構成でした。

この時、出ていた精神保健福祉士や保健師にその後の反応などを
聞いてみたのですが、内容的にゲートキーパーやSOSの出し方、
メンタルヘルスなどの話をさせていただいたのですが、お子さんか
ら「自分が相談されたらどうしようかと思った」などといったこと
が聞けたというそうです。また宮城公民館の方で、保護者の方が6
人出ていただいたのですが、その方達の中には、この講座を聴くた
めに参加してくれた方も結構いて、メンタルヘルスの領域について、
保護者層の関心が高いことを感じたという話を聞いております。

次の8ページです。「生徒指導主任の自傷・自殺の対応への講義」
ということで、これも精神保健福祉士が行ってやらせていただいた
ゲートキーパーの研修ですが、こちらの方は小中学校の学年主任の

方が69人、学校長が3人、青少年支援センターから5人の方が出席していて、合計77人の方に参加していただいております。本当に皆さんが集中力を切らさずに受講していただいたというような印象を講義をしていた職員は持っていたそうです。そういった中で我々健康部の職員もそれを見て、逆にこういう反応が入ってくるのだというのを改めて学んだことも多く、これだけの生徒指導主任の方を集めるというのは健康部単独ではなかなか難しい話なので、このような形で教育委員会と連携させていただいたことで、業務の広がりも出てきました。

教 育 長

ありがとうございました。

チームズが設置されてからの取組など詳細なお話しをいただきましたけれども、小川市長さんはこの半年を振り返って、チームズの効果についてどのようにお感じになりましたか。

市 長

本当にこどものことは全ての人、全ての部局に関わるのだということに連携をして、いろんな形を模索していただいて、今チームズというまずは庁内の中でしっかり体制を作っていくということに始めていただきました。本当に今までわかっていたつもりだったところが、より深く、それぞれの部署で連携ができているのを感じているところです。引き続き庁内でのそういった活動を活発にさせていただけると嬉しいと思っています。これは庁内の話でしっかり内部の組織を強くしてできることを増やしていくのも、とても大事なことなので、しっかりこれはチームズとしてこども施策を教育委員会と市長部局とで進めていきたいと思っています。

教育やこども達のことは市役所の中は勿論ですが、地域の皆さんも本当に皆関わりたい、こどものために何かをしたいと思ってくださっている方が多くて、今タウンミーティングなどで色々な地域に行って、地元や自治会の方とお話をしていても、「自治会の私達に、もっとこども達のためにできることはないか」、「学校に協力できることはないのか」というのを真剣に思ってくれている方が数多くいるので、内部の連携がしっかりできた先には、やはり地域と学校との繋がりというところも、さらに深くしていける可能性があるというのを、半年色々と動いて見て感じているところもあります。

教 育 長

やはり先生方も忙しくて、なかなか手に負えないこと、やり切れないことがあると思います。そこを地域の方々の力を借りて一緒にこどもを育てていくということがとても大事だと思います。

コミュニティー・スクールも始まりますが、この中で、地域の方にたくさん関わっていただいて学校と結びついていくと良いと思っています。

今年度、来年度以降のコミュニティー・スクールの方向性についてお話をお願いしますでしょうか。

学 務 管 理
課 長

来年度にかけて全校でコミュニティー・スクールをスタートする予定になっております。学校運営協議会というものを設置し、そこに地域の方々を巻き込んで学校の運営、あるいは人事、そういったことまで協議をしながら一緒に進めていこうという仕組みで、スタートをしたところですので、ここからさらに研究してより良い成果が出るような運営協議会にしていきたいと考えております。

教 育 長

多分、公民館の方にも地域の方から「学校のためにしてあげたい」と言う声が寄せられているのではないかと思います。生涯学習課として公民館の立場から学校との連携について、今後こうしていきたい、こうなるだろうというようなお話を聞かせてもらえますか。

生 涯 学 習
課 長

公民館と地域、学校を結ぶという意味で先ほどのコミュニティー・スクールの導入も大きなきっかけとはなりますが、公民館運営の公民館運営推進委員会にも学校、そして地域の方にも加わっていただいて、どのような事業を行っていくか、そういった話し合いも持ちながら事業を企画したり実施しておりますので、今後さらに地域、学校と繋げていけるような機能を公民館が持てたらと思っております。

教 育 長

ありがとうございました。

市内のチームズの先に社会とどのように繋がっていくかということも教育委員会でこれから考えていきたいと思っております。これまではこの半年を振り返ってということでしたが、これからのことについてお考えをお聞かせいただければと思います。

現在医療と福祉との連携というのが主になっているのですけれども、教育委員会、医療、福祉だけではなくて、さまざまな分野と連携をして子ども達を支えることができるだろうと思っております。立ち上がっているチームズも決して福祉と医療ばかりではないのですが、委員の皆さんから見てこの分野とこういうふうに繋がると良いのではないかとというようなアイデアなどがあったら教えていただきたいと思っております。

北爪委員 私は米農家で米作りをしています。宮城地区に住んでいて、こどもが宮城小に通学しています。宮城は本当に自然豊かなところで、米作りの授業で田植えまでするというものが未だにあります。しかし地域の若い方々が忙しかったり、先生方も地域の人たちとやり取りをするのがすごく時間的にも大変だということで、実は徐々に無くして行く方向にあるという話を伺いました。

しかし、お米や植物を育てるというのは、すごくこども達が成長することにとって良いことなので、ならばうちのお店でやっていこうということで去年からうちでお子さん達を集めて親子で田植え体験会などを行っていますが、こどもだけでやるのではなく、親子で体験することによって、経験値が上がったり、経験することで色々な自信もついてくるので、自然がある前橋市の魅力を生かし、連携ができれば良いのではないかというふうに思っています。

教育長 ありがとうございます。

畠山委員も農業と教育が非常に親和性が高いと言いますか、お互いに良い作用があるのではないかというようなお話もされていましたが、この辺りはいかがでしょうか。

畠山委員 確か以前、教育委員会の定例会で神社でやっている御神楽の起源について少し話をしたと思います。御神楽はルーツをたどっていくと、田遊びとか田楽などそういうものになります。それをさらにたどっていくと田んぼで稲刈りをした後のこの時期にこども達が遊んでいて、それで自然に耕されるのか、土が掘り返されるのか分かりませんが、それにより翌年、そのこども達が遊んだところは豊作になると言うのがわかり、それを儀式化していったのが田遊びや田楽のルーツであるという話を僕はある人類学者の人から聞いたことがあります。

やはり原点は田んぼはきちんと線を引いてそこに植えていくという部分もありますが、同時に僕もこどもと一緒に田んぼ耕したことがありますけど、こども達は飽きてくると遊びます。泥まみれになりながらオタマジックやオケラを取り始めたりなどします。でも、大人と一緒にそれをやっていくことで、こども達が持っているある種の活力みたいなものがすごく湧いてくるのです。

今、色々なことがシステムチックになっていますけど、原点は多分、その田んぼの遊びにあったのではないかと、田んぼで遊んで、大人も一緒に遊んで、お祭りで盛り上がって楽しくやっていたという喜

びとか豊かさみたいなものが、おそらく地域やコミュニティーなどを自然と作り上げてきたのだと思うのですが、そこからシステムチックで色々と理屈で考えて、整理してきたわけですがそれが行き過ぎて、今、多分こうやって地域コミュニティーがなかなかうまく回らなくなっているというところがあるのだと思います。

そのように考えるとやはりそのこども達がシステムチックに考えると大変なのです。シンプルに遊べば良いと思うのです。シンプルに遊んで、一緒に先生たちも地域の人もみんなで遊んでそこをどうするかというのが難しいですけど、今の世の中だと、それができると、自然と勝手にチームやコミュニティーは再生されるのではないかと思います。その可能性を秘めているのはやはり農業かと思いません。

改めてそういう観点から農業と地域と教育を結びつけることはとても大事なことだと思います。

市 長

以前にも言ったかもしれないですけど、私も最近こどもがすごく忙しそうだと思っていて、学校では勿論ずっと教室で授業が入っているし、学童で遊んで帰る子もいますが、習い事をしたり、塾に行っていたり、宿題もたくさん出ているかと思っています。本当に今、畠山委員がおっしゃったように遊ぶ時間はどのぐらいあるのか、自然を体験する時間や農業などは、本当に家族や近くで農業をやっている人がいないと、そもそも触れる機会すら無いような状況になっています。また、今 GIGA スクールでデジタルがすごく進んできています。お家に帰ってもデジタルについては生まれた時から皆の身近にあるので触れる機会は多いと思うのですが、やはりそれ以外のアナログな体験をする時間というのが相対的に減っているのではないかと思います。そこは意識的にそのための機会を作っていくことが、こどものためには必要なのだと思うのです。但しそれを学校でやるのか、地域でやるのか、またどこか違う機会が企業が協力してくれるのか、言い方はそれぞれだと思うのですけれども、いずれにしても色々な体験していくという事は大事かと思っています。

農業に関して言えば、給食の食育や、食べることなど今、給食費も無償化という事で進んでいますけれども、そういうところにもすごく関わってきますので、やはり大事なポイントであるというふうに思っているし、やりたいと思っている事でもあります。

教 育 長

本当に農業の面白さは北爪委員のお店に行って、見せてもらって

いるのですが、こども達は野菜を採って販売したり、お米を栽培してお餅にして巻いていくこども達の姿など、農業によって、こども達は育てられているというのを北爪委員に色々見せてもらっています。

農業に関わる・関わらないではなくて、本当に市長さんのおっしゃったように体験する時間をしっかりと設けることが、今のようなGIGA スクールなどでデジタルな世の中になっているからこそ、就学前の遊びこみというのは、私はとても大事だと思っています。教育委員会というと、やはり義務教育の小学校、中学校がメインのように感じられるかもしれませんが、0歳から就学前までのこの6年間でどれだけ遊べるか、遊びの中で学べるか、これは市立の幼稚園に行っているかどうかではなく、全ての前橋のこども達が、どれだけ遊べたかで、その後の人生が決まるのではないかと私は思っています。

今後は幼児教育にも、もっと力を入れていきたいというふうに感じています。そのためには、私達教育委員会が培ってきたこの教育の部分と保育の部分、こども園・保育所とが一緒になって、お互いの良いところを共有し合って前橋の全ての0歳から6歳までのこども達を育てていくということが求められているのかと感じています。

渡辺委員いかがでしょうか。

渡 辺 委 員

私は仕事で幼稚園に行き先生方と直接接することがありますが、どうやってこども達を遊ばせるかということを実際に悩んでいます。そこで、今の話に繋がると感じます。そういう先生方の工夫によってこども達は遊ぶということを実際に体験していると思います。なので、6年間で遊びを探究する共通の場所だということの認識があれば、そのために何が出来るだろうということ、それぞれの人たちが工夫できると思うので、もしかしたら遊びが大事だという事を掲げるのは1つ大事だと思います。

もう1つ加えて言わせていただくとこの頃、企業などで必要な人材がどういう人材かといった時に、例えば挑戦できる力というのが求められますが、そういった力をどうやって育むのだろうとなるとやはりこどもの時から育ってくる時に、楽しい体験もそうですし、辛い体験なども大事で、そういう中でこのような場合は、こうした方が良いかもしれないというのを身につけてくるのだと思うのです。だから体験は1つ大事だと思うのですが、なぜか今の状況はとても丁寧に準備されているような気がします。ですので、もう少し自由にさせるというか、多くの体験ができるような環境が大事だと

感じます。その中で動物的に身につけるような感覚がついていくと思うので、今は少し保護的になっているという感じがします。

市長 中学生や高校生と意見交換する時に、結構生徒と学生から毎回言われるのが「もっと自分たちを信用して、自分たちの意見を聞いてもらいたい」、「自分たちのやりたいことを、学校でやらせて貰いたい」という意見です。だからあまり段取りをして教育の現場で提供するのではなくて自分たちで考えて、学校を良くしていくというのをやってもらうという事は大事なのではないかと思います。それをこども達も望んでいるのではないかというのは私も感じているところがあります。

教育長 先日、県の平田教育長さんと市立のまえばし幼稚園と一緒に視察させてもらったのですが、生まれながらにして人間はこんなに主体的なのだというのが平田教育長のお言葉です。この主体性をいかに伸ばして、引き出していくかが、やはり教育なのだろうと思うのです。主体性を付けるのではなくて、こども自身は持って生まれてきているということを私達は改めて認識しなければいけないというふうに思いました。

奈良委員、今後についてお願いします。

奈良委員 今後といいますか、連携の所で若者との連携。特に私は大学で教員をやっていますので大学生はずごく力あると思っています。あらゆる政策をやる時に、どうしても人が必要になってくる時に大学生ボランティアを希望する学生が多くいます。そして、またその学生がこども達と触れ合ったりすることによって「こどもは可愛い、こどもは良い、こどもを持ちたい」というような繋がりも出て来るのではないかと思います。ぜひ前橋市内にはいくつかの大学がありますし、前橋近郊のところにも大学がありますので、そういうところと連携を図りながらお互いウィンウィンになっていくかもしれませんので、その辺も考えてもらっていただければと思います。

教育長 前橋市、前橋近郊も含めて前橋にはたくさんの大学があって、素晴らしい教育資源を私達は借りていきたいと思っています。

時間がそろそろやって来るのですが、最後に市長さんお話をいただけますでしょうか。

市長 第2回ということで、今年度2回目の総合教育会議でしたけれど

も具体的なお話ですとか、こども達のために大事なことは何か、お話が聞けて心強いと思いました。渡辺委員がおっしゃってくれた「6年間遊びを探求するという」これはすごくいいメッセージをいただいたと思いますし、教育のこれからの方向性を昨日も議会で教育長が質問されて答弁していましたが、やはりこども達のために前橋市としてどういう所を目指していくかというのは本当に今真剣に考えていかなければいけない時に来ているのかと思っています。人口が減っていく中で、学校もこれからはかすると適正規模というのも出てきますし、中身を学校でカリキュラムをどう組んでいくかというのもあるのですが、そういった1つ1つのテーマについてまた今後も意見交換させていただけたらと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願い致します。

今日はどうもありがとうございました。

教 育 長

ありがとうございました。

今市長さんから適正規模のお話がありましたけれども、私達は新しい社会の新しい教育を作っていくのだという思いで教育委員会の職員としています。教育委員の皆さんも同じ気持ちだと思います。是非今日の色々な議論を新しい教育を作っていく材料として、これからは色々なお話が出来たらと思います。

様々なご意見等をいただきましたが、改めまして、「こども」施策は、すべてに繋がるものでありまして、未来への投資だと思えました。こども主体のまちづくりが「こどもの笑顔があふれるまち」に繋がっていくと教育委員会も思っております。

私達の目標は市長が考える「こどもの笑顔があふれるまち前橋」です。その目標が達成できれば、こども達が主体的に生きる力が身に付くものと思います。今後も連携・協力を続けていきたいと思えます。以上で会議を終了し進行を教育次長にお返ししたいと思います。ありがとうございました。

教 育 次 長

皆さん本日はありがとうございました。

最後の方は本当にテーマにございます「こどもの生きる力を育むために」という核心に迫るご意見をいただきまして非常に仔細な発言をいただきました。ありがとうございました。

以上で本日の会議を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。

(午後4時00分)